

インフォメーション・コーナー

会 告

○平成 22 年度農業農村工学会大会講演会（神戸大会）の 企業展示および広告掲載申込みについて	80
○論文集の J-STAGE への登載と論文集投稿時の振込金の変更について	80
○平成 22 年度「研究グループ」の助成金募集について	81
○平成 22 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について	81
○平成 22 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について（再）	82
○「水土の知（農業農村工学会誌）」読者の氏名公表とご協力のお礼	82
○「農業農村工学会論文集」読者の氏名公表とご協力のお礼	83
○学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	84
○「農業農村工学会学術基金」の募金について	85
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について	85
○身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「水土の知（農業農村工学会誌）」平成 23 年春季の表紙写真の募集	85
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております!	86
○国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」について	87
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ	88
農業農村工学会論文集第 266 号内容紹介	89
学会記事	91

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 22 年 8 月 31 日～9 月 3 日	大会運営委員会	平成 22 年度農業農村工学会大会講演会 Ⓟ		神戸市	77 巻 12 号 78 巻 1,3,4 号

第 78 巻第 5 号予定

展望：中嶋康博

小特集：農用地整備と地域の振興

- ①農用地整備の 50 年間の軌跡：角田 豊
- ②根室東部地域の開発の歴史：佐藤康文ほか
- ③北上高地の開発と地域振興：美濃眞一郎ほか
- ④利根沼田区域の地域振興：鶴岡敬三ほか
- ⑤阿蘇地域の畜産開発と地域振興：今村修三ほか

技術リポート

- 北海道支部：暗渠排水施工における農作業効率の回復に関する検証：遠藤英樹ほか
 東北支部：魚類の生息と移動に配慮した低コスト環境型水路：池田勝行
 関東支部：海底地すべり地層の保存対策について：大黒 理ほか
 京都支部：農道整備事業における土地収用法の活用事例：佐藤守一
 中国四国支部：希少魚類の生息環境に配慮した排水路の整備：山本仁志
 九州支部：須野ダムの水質浄化について：原口博昭

小講座：特定中山間保全整備事業：一戸孝之

私のビジョン：小さな持続可能性を積み上げる：松原英治

平成 22 年度農業農村工学会大会講演会（神戸大会）の企業展示および広告掲載申込みについて

平成 22 年度農業農村工学会大会講演会運営委員会

平成 22 年 8 月 31 日（火）、9 月 1 日（水）、2 日（木）の 3 日間、神戸大学で開催されます平成 22 年度農業農村工学会大会講演会において、企業展示を行います。展示を希望される企業は、下記要領によりお申し込み下さい。

1. 企業展示（展示会場）

神戸大学鶴甲第 1 キャンパス

※具体的な場所や条件はお問い合わせ下さい。

2. 広告掲載

大会講演会概要集に掲載（B5 判モノクロ印刷）

※概要集は大会参加者全員に配布

3. 出展料

- | | |
|-------------------------|-----------|
| ① 広告 1 ページ | 60,000 円 |
| ② 広告 1/2 ページ | 30,000 円 |
| ③ 企業展示（屋内） | 100,000 円 |
| ④ 企業展示（屋外） | 80,000 円 |
| ⑤ 広告 1 ページ + 企業展示（屋内） | 140,000 円 |
| ⑥ 広告 1/2 ページ + 企業展示（屋内） | 120,000 円 |

4. 申込方法

(1) 申込手順（a→b→c→d）

- a（貴社） 所定の申込用紙（学会ホームページの「新着情報」に掲載）と(2)展示概要（任意様式）を送付（郵送、E-mail 等）
- b（事務局） 申込み受付後、貴社へ請求書発送
- c（貴社） 振込み
- d（事務局） 領収書および広告掲載紙を発送（完了）

(2) 展示概要 展示する内容および必要物品等（要電源、

机、イス等）、希望事項（屋内スペースで〇〇m²、屋外スペースで〇〇m²等）等を任意様式で作成・提出して下さい。（基準面積は 2.5 m×2 m（屋内）です。）

(3) 申込期限 平成 22 年 6 月 30 日（水）まで

(4) 振込先

・金融機関：三井住友銀行

・店名：六甲支店（読み：ロッコウシテン）

・店番：421

・預金種目：普通預金

・口座番号：4326397

・口座名義：平成 22 年度農業農村工学会大会講演会

（ヘイセイニジュウニネンドノウギョウノウウ

ソソコウガツカイトイカイコウエンカイ）

(5) 申込み・問合せ先

平成 22 年度農業農村工学会大会講演会事務局

（河端俊典あて）

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

神戸大学大学院農学研究科内

TEL&FAX 078-803-5902

E-mail：kawabata@kobe-u.ac.jp

（問合せは、できるだけ E-mail でお願いします。）

※併せて、大会参加申込みの受付をしています。

詳しくは、学会誌（水土の知）3 月号または農業農村工学会のホームページをご覧ください。

論文集の J-STAGE への登載と論文集投稿時の振込金の変更について

論文集編集委員会

論文集の J-STAGE への登載について、論文集購読者へのアンケートおよびホームページにおけるパブリックコメント聴取を経て、発行 1 年後に論文集掲載論文を J-STAGE へ登載すること、また、登載料として著者に 4,000 円を負担していただくことを第 210 回理事会（平成 21 年 5 月 19 日開催）において決定し、論文集 259 号（2009 年 2 月号）より J-STAGE へ登載すべく準備を進めております。

現在、投稿料 16,000 円を投稿時にお振り込みいただいておりますが、J-STAGE への登載料 4,000 円についてもあらかじめ徴収することとし、平成 22 年 4 月 1 日受付分より合計 20,000 円をお振り込みいただくことといたしました。

その理由としては、論文集の発行と同時に J-STAGE へ登載

するためのデータ整理等を外注する必要があるため、その費用に登載料を充てることが挙げられます。そこで、投稿時にあらかじめお振り込みいただくことが必要となりました。

ただし、審査の結果、投稿論文等が掲載不適となった場合は、登載料 4,000 円を返金いたします。

なお、論文集 259 号以降に掲載された論文等についての登載料は遡って著者に請求させていただきますので、ご了承いただきたくよろしくお願い申し上げます。

なお、論文集 259 号の J-STAGE への登載時期は、今年の夏以降を予定しております。

平成 22 年度「研究グループ」の助成金募集について

研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度、3 件以内です。

本年度の申請締切は、平成 22 年 6 月 30 日（水）ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式（学会 HP 参照）で研究委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 配布：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に 40 歳未満であること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後 1 年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注 1) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり 1~2 ページに収まるようにまとめること。

注 2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

平成 22 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60 万円程度（平成 22 年度、原則 1 件 20 万円以内）です。

本年度の申請締切は平成 22 年 9 月 17 日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成金の配布グ

ープと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。

3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。

4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」

は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成22年9月17日

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長宛

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名(または部会名) (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

平成22年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について(再)

学術基金運営委員会

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成22年度は、規程第4条(1)の「特定の分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局あてお申し込み下さい。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員(学生会員を含む)、または会員により構成されるグループ

2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与すると思われる研究について援助する。
- (2) 平成22年度中(平成22年4月から23年3月)に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援

助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合は受理を条件として援助の可否について決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安

1件15万円程度を限度とする。

4. 申請締切 平成22年4月30日(金)

5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出し、その原稿は学会誌に掲載される。

6. 申込み・問合せ

〒105-0004

東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3F

農業農村工学会 学術基金運営委員会

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail：suido@jsidre.or.jp

「水土の知(農業農村工学会誌)」読者の氏名公表とご協力のお礼

農業農村工学会誌編集委員会

農業農村工学会誌は、昭和4年の学会創立とともに、農業土木研究として刊行され、以来、戦中の一時期を除き、多くの方々のご協力により発行を続けてまいりました。

とりわけ、読者の方々には多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。

農業農村工学会誌編集委員会では、読者への感謝の意を表すべく、平成11年度から氏名を公表(五十音順・敬称略)させていただくことといたしました。

ここに、平成21年4月から平成22年3月までの期間に、

青井 隆	安養寺 久男	一 恩	英 二	岩 渕	善 彦	緒 方	英 彦
天谷 孝夫	石 井 敦	伊 藤	良 栄	大 澤	和 敏	小 倉	力
有田 博之	石 井 将幸	井 上	京	岡 島	賢 治	鬼 丸	竜 治

閲読いただきました方の氏名を公表させていただきます。

この一年間に学会誌の内容充実にご協力、貢献いただきまして、まことにありがとうございました。ここに、お名前を記し、貢献への証しとさせていただきます。

なお、氏名の公表を辞退されている方もおられることを申し添えます。

今後とも、ご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

柏木 淳一	近藤 良子	谷 茂	浪平 篤	堀 俊和
勝俣 孝	佐久間 泰一	田村 孝浩	西野 徳康	本田 毅
加藤 亮	嶋 栄吉	千葉 克己	西村 眞一	本間 新哉
加藤 徹	島田 正志	辻 修	西村 直正	松原 雄介
河地 利彦	清水 穂高	塚本 康貴	野本 健	松本 精一
北川 巖	鈴木 伸治	富樫 千之	橋本 禪	三橋 伸夫
九鬼 康彰	鈴木 正彦	土佐 久幸	服部 俊宏	虫明 晋哉
工藤 庸介	鈴木 将英	友正 達美	治多 伸介	宗岡 寿美
倉島 栄一	須田 達也	中嶋 勇	姫野 靖彦	村瀬 勝洋
栗田 英治	清野 俊一	中田 撰子	福永 誠二	粉井 和朗
黒田 久雄	大黒 理	中司 昇吾	福与 徳文	森 丈久
古賀 潔	田頭 秀和	中村 和正	藤岡 正博	森 充広
近藤 文義	竹下 祐二	中矢 哲郎	細川 吉晴	諸泉 利嗣

「農業農村工学会論文集」 読者の氏名公表とご協力のお礼

農業農村工学会論文集編集委員会

農業農村工学会論文集は、昭和35年10月発行の「農業土木研究別冊1号」から教えて、平成22年4月には、通算266号を数えることとなりました。投稿される論文数も年々増加し、その分野も徐々に広がりつつあります。このような環境の中で、読者各位のご支援・ご協力によって、つつがなく265号までの刊行が可能でありましたことを、深く感謝申し上げます。

農業農村工学会論文集編集委員会では、感謝の意を表したく、平成11年度から読者を公表（五十音順・敬称略）させていただくことといたしました。

ここに、平成21年4月から平成22年3月までの期間に投稿原稿を閲読いただきました読者の氏名を公表させていただきます。

この一年間、論文集に掲載されるにふさわしい内容の維持にご協力いただきまして、まことにありがとうございます。ここにお名前を記し、貢献への証しとさせていただきます。

なお、氏名の公表を辞退されている方もおられることを申し添えます。

今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしく申し上げます。

相崎 万裕美	井上 京	加藤 亮	小出水 規行	白谷 栄作
粟生田 忠雄	井上 光弘	加藤 徹	鯉 潤 幸生	神宮 字 寛
赤江 剛夫	猪迫 耕二	鎌田 徳郎	向後 雄二	勝呂 尚之
東 淳樹	鶴木 啓二	川嶋 雅章	小島 信彦	関司 直也
東 信行	遠藤 和子	河野 泰之	小高 猛司	鈴木 正貴
足立 久美子	大久保 博	川本 健	後藤 慎介	宗村 広昭
天谷 孝夫	大谷 順	菊池 喜昭	小林 晃	大東 憲二
有田 博之	大槻 恭一	北辻 政之	小林 範之	高木 強治
安中 武幸	大坪 政美	木谷 収	小林 久	高田 雅之
井合 進	岡島 賢治	北村 義信	小林 政広	高橋 強
飯田 俊彰	緒方 英彦	木原 康孝	斎藤 広隆	瀧本 裕士
飯塚 敦	岡本 敏郎	木全 卓	酒井 一人	武田 育郎
飯山 一平	小川 茂男	木村 亮	酒井 俊典	竹門 康弘
池口 厚男	沖 陽子	九鬼 康彰	坂田 寧代	武山 絵美
石井 敦	奥野 哲夫	工藤 庸介	坂本 誠	田中 幸一
石井 将幸	角道 弘文	国枝 稔	佐藤 周之	田中 孝
石川 雅也	笠間 清伸	久保田 富次郎	島 武男	谷本 岳
石黒 覚	柏木 淳一	久保寺 秀夫	志村 もと子	近森 秀高
石黒 宗秀	片野 修	倉島 栄一	荘林 幹太郎	千野 裕之
井上 一哉	加藤 正司	黒田 久雄	白木 渡	霧村 雅昭

東畑 郁生	登尾 浩助	堀 俊和	森 丈久	吉 迫 宏
常住 直人	橋 本 禅	前田 健一	森 充広	吉田 謙太郎
豊福 俊泰	畑中 重光	牧 恒雄	森 也寸志	吉田 貢士
取出 伸夫	八丁 信正	牧野 知之	森井 俊広	吉田 修一郎
中川 啓	服部 俊宏	榎平 龍宏	諸泉 利嗣	吉田 晋一
中桐 貴生	濱 武英	牧山 正男	八嶋 厚	吉田 恒昭
長坂 貞郎	濱田 康治	増川 晋	安福 規之	吉永 育生
永坂 正夫	林田 寿文	松井 宏之	山岡 和純	吉村 亜希子
長澤 徹明	原 隆史	松川 寿也	山岡 賢	若杉 晃介
中嶋 勇	治多 伸介	丸居 篤	山崎 浩之	渡邊 一哉
長野 宇規	東 孝寛	丸山 健夫	山下 慎吾	渡邊 文雄
中村 和正	久田 真	三沢 眞一	山下 良平	Annamaria
中村 公人	秀島 好昭	溝口 勝	山本 清仁	Cividini
中山 恵介	平松 研	皆川 明子	山本 忠男	Giovanna Bis-
西田 一也	広瀬 慎一	三輪 弼	山本 徳司	contin
西村 眞一	福田 信二	宗岡 寿美	山本 博	Jianye Ching
西村 伸一	福村 一成	村岡 敬子	弓削 こずえ	Sanjit Kumar
西村 拓	藤居 良夫	村上 章	袖山 義人	Deb
西山 竜朗	藤咲 雅明	村上 政治	横張 真	
野田 利弘	藤原 拓	粕井 和朗	吉川 夏樹	

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

技術者継続教育機構通信教育部会

学会誌を出典とした通信教育を平成 18 年 11 月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 CPD ポイント、また、通信教育で最大年間 24 CPD ポイントが取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

なお、学会誌 2 月号に掲載された通信教育問題から配点を改正(正解率 70% 以上の場合 1.0 CPD ポイントから 1.5 CPD ポイントへ、正解率 100% の場合 1.5 CPD ポイントから 2.0 CPD ポイントへ)いたします。詳細については、第 53 回通信教育問題(学会誌 2 月号 65 ページ)をご参照下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の正・学生会員で、かつ CPD 会員の方は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E-mail: kaito@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX(03-5777-2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会をご希望される方は、同様にホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 内容

問題は 3 カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメール (E-mail: kaito@cpd.jsidre.or.jp) で機構に送信していただきます。

採点の結果、7 割以上正解で 1.5 CPD ポイント、満点で 2.0 CPD ポイントが取得でき、CPD 会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

4. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成21年度までに54件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年ごと更新）に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則2～3日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額300万円）。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

「水土の知（農業農村工学会誌）」平成23年春季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成23年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したこと起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、

防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが大規模プロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域には、規模に違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含み景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「春」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」
(昨年と同様)

2. 対象巻号

学会誌第79巻(平成23年1~12月号)のうち、特に春季のもの

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定)撮影して下さい(サイズは六ツ切)。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 平成22年6月30日(春季の写真)

6. 審査 審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第79巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成23年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金(1点につき3万円)をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History (表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」をご執筆頂きます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権

採用作品の使用権は(社)農業農村工学会に属します。

11. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ等)、対象物の固有名称(固有名称)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌78, 79巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)	原 稿 締 切 (刷上り 4ページ厳守)
78巻 6号 自然と共生する兵庫の水利ネットワーク保全の取組み(仮)	公募せず	
7号 田園地域・里地里山の保全と生物多様性(仮)	公募終了	
8号 農業農村工学分野における再生可能エネルギーの利用技術(仮)	公募終了	
9号 広域的な防災・減災技術とリスク管理による災害に強い農村づくり(仮)	公募終了	平成22年5月10日
10号 農業農村整備事業を契機とした農村環境の保全(仮)	平成22年4月25日	平成22年6月10日
11号 コスト縮減に資する圃場整備(仮)	平成22年5月25日	平成22年7月12日
12号 地域貢献とフィールド研究(仮)	平成22年6月25日	平成22年8月12日
79巻 1号 教育の場における次世代育成の現状と課題(仮)	平成22年7月26日	平成22年9月10日
2号 ため池と農業農村工学(仮)	平成22年8月25日	平成22年10月12日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集

しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。な

お、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて
 ☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
 E-mail: henshu@jsidre.or.jp

78 卷 10 号テーマ 「農業農村整備事業を契機とした農村環境の保全」(仮)

農業農村整備事業は、農業生産基盤や農村生活環境を整備・保全することを通じ、二次的自然である農村環境を健全な状態に維持保全するとともに質的な向上を図り、従前の環境の再生や新たな環境の形成に寄与するものです。

近年、多くの人々が豊かな農村環境とのふれあいを求める一方、農村では過疎化、高齢化に伴い、二次的自然や地域資源の質的低下が課題となっていることから、農村環境保全の取組みにおける住民参加や多様な主体の参画の促進が重要となっています。

したがって、今後、農業農村整備事業については、同一の構想・理念のもと、地域全体で調和のとれた環境保全を進めるため、農村環境の保全に視点をのこした地域づくりを積極的に推進していく必要があります。

そこで、本特集では、農業農村整備事業を契機として、地域の複数の主体の参画を得て、地域の個性を活かした環境保全活動や地域づくりを進めている事例について、その取組み状況や現在の体制に至る経緯などの報文を広く募集いたします。

78 卷 11 号テーマ 「コスト縮減に資する圃場整備」(仮)

農業生産基盤整備の実施に当たっては、地域の実情に即して、効率的、効果的な事業の実施が求められており、総合的なコスト縮減の推進を図ることが食料・農業・農村基本計画にも示されています。また、担い手への農地集積等の農政課題に適切に対応していくためには、圃場整備への投資が今後も重要となってきます。

しかし、近年の米価の低迷等による農家所得の減少等により、圃場整備に対する農家の投資意欲が減退しています。

このため、地域農業の持続的な発展に資する基盤整備を今後

とも実施していくために、たとえば、農地の利用集積の状況など地域の農業構造改革の進展に応じて、畦畔撤去による最小限度の整備で区画の拡大を図り、機械の大型化や水管理労力の節減を図るなど、少ないコストで担い手へ農地集積する効果の高い、圃場整備技術の普及が必要で。

そこで、本特集では、更なる担い手への育成・確保の契機となる整備手法を推進し、農村社会の持続的な発展に資するため、地域ごとに取組むコスト縮減に資する圃場整備技術を導入した基盤整備の取組みについての報文を広く公募いたします。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のご願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2010年3月末に Vol.8, No.1 が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)

- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流、情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

※入会のお申込は、学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR

THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたはFAXでお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2010年3月末にVol.8, No.1が発刊されました。

わが国においても学術誌の評価に、SCI(Science Citation Index)のIF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指してきました。

また、世界13カ国からEditor(14名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer-Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

このような努力が実り、2009年12月、本ジャーナルがトムソン・ロイター社のSCIEに収録され、インパクトファクターを獲得したというビッグニュースが飛び込んできました。詳細についてはEditor-in-Chiefによる海外ニュースが本誌1月号88ページに掲載されていますのでご参照下さい。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）は、台湾になります。

投稿先：Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No. 1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C)

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

TEL : +8862-2-3366-3467

FAX : +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

編集体制

• **Editor-in-Chief : Dr. Yoshisuke Nakano** (Japan)

Professor Emeritus, Kyushu University, Japan

• **Editors** 13カ国から14名

• **Editing Board** 32名

• **Managing Editors**

Chief Managing Editor : Prof. Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Dr. Katsuyuki SHINOBI

National Institute for Rural Engineering, Tsukuba, Japan

Prof. Dr. Haruhiko HORINO

Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

Prof. Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

出版社：Springer-Verlag社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：<http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。